

憲法・地方自治・民主主義で地域・自治体に輝きを

みんなが先生
みんなが生徒

第58回自治体学校 in神戸

7月30日(土)～
8月1日(月)

今週の活動から



7月28日(木)神奈川県総合防災センターで、第50回神奈川県消防操法大会が開かれました。県内の消防団が二年に一度、技術を競い合います。厚木の第5分団が小型ポンプ操法の15番目に出場し、優良賞となりました。(来賓の畑野君枝衆議院議員を中に、左：釘丸久子議員、右：栗山香代子議員)

講演する加茂利男氏



自分は病気をしたこともあり、強い危機感と現実逃避を募らせていた。その後少し体力を取り戻し、現実に向かい合う気持ちになり、時代の動きを眺め渡すことができた。すると景色が変わって見えてきた。

加茂利男氏は「21世紀の世界と日本は、不安と混沌に満ちている」と話し始めました。
昭和恐慌の昭和2年、芥川龍之介は「僕の将来への唯ぼんやりした不安」という言葉を残して自殺した。今の時代もその時代に似ている。東日本大震災や熊本地震、集中豪雨やゲリラ豪雨などの災害。政治の分野では、圧倒的な与党勢力に押し流され、平和憲法も、民主主義も、言論の自由も、地方自治も壊され、「戦争できる国」への体制整備が進んでいる。
自分は病気をしたこともあり、強い危機感と現実逃避を募らせていた。その後少し体力を取り戻し、現実に向かい合う気持ちになり、時代の動きを眺め渡すことができた。すると景色が変わって見えてきた。

記念講演
日本型人口減少社会と「地域の再生」
―不安と混沌の時代をどう生きるか―
大阪市立大学名誉教授 加茂利男氏

7月30日～8月1日、神戸市内で第58回自治体学校が開催されました。初日と3日目の会場は神戸芸術センター、2日目は神戸市外国語大学で12分科会、他に現地分科会が3コースありました。

日本型人口減少の要因は

18世紀の産業革命以来、近代社会は工業化・都市化、人口増の一途をたどってきた。

現在の世界の人口推移の予測を見ると、アメリカが突出して増加し、日本は激減するとい

いう。
日本の人口減少問題について、元総務大臣の増田寛也氏が書いた『地方消滅』が大きな話題になった。大変な低出生社会になり、自治体が消滅すると具体的に自治体名をあげたので、関係者は大きなショックを受けた。

先進国の人口推移 2005年を100として2050年の推計値					
日本	ドイツ	イタリア	フランス	イギリス	アメリカ
74	83	108	115	128	142

高度成長時代が終わり、1970年代の石油ショック以降、日本は平成不況へ、失われた20年へと長期的な経済停滞に入っていく。政府・企業は一体となって、むり

危うさと混沌に満ちた世界でも、失望することなく、みんなが小さな頑張りを見重ねれば、いずれは社会を動かす力を持ちうるという『命題』に気付かされた。

昨年、安保関連法案に反対して新しい運動が盛り上がり、ヘイトスピーチに反対する声に押されてヘイトスピーチ対策基本法ができ

地域間で人口争奪ゲーム

子どもを持つ家庭への国家的政策

人口が増えない中で、ある地域が知恵を絞って発展すると、そこに人が集まってくるが、その分ほかの地域の人口を減らすことになる。勝ち組と負け組の差が絶対的な違いになるというのが「地方創生」の問題である。人口争奪ゲームの裏にはまっとうな

OECD(経済協力開発機構)は、出生率の回復には、子どもを持つ家庭への税控除、児童手当、育児休業、保育所の増設などの家族政策は相当な効果を発揮すると

して、これらの家族政策を国全体で行うことが必要であるという見方を打ち出している。

自治体間で人口争奪ゲームをするのではなく、出生率を全体として底上げする国の政策がどうしても必要である。

8月の法律相談

8月23日(火)1時30分～

前日迄の連絡を!

第58回自治体学校in神戸 主な内容

7月30日(土) 全体会	記念講演(加茂利男氏) 日本型人口減少社会と「地域の再生」 パネルディスカッション:辺野古への新基地建設をめぐる国と沖縄県
7月31日(日) 12分科会	第1:社会保障解体の「工程表」と地域の運動 第7:公務の非正規化は住民サービスに何をもたらすか ナイター企画:ワンポイントレッスン生活保護
8月1日(月) 全体会	特別講演(西堀喜久夫氏) 自然災害からの復興と地域連携